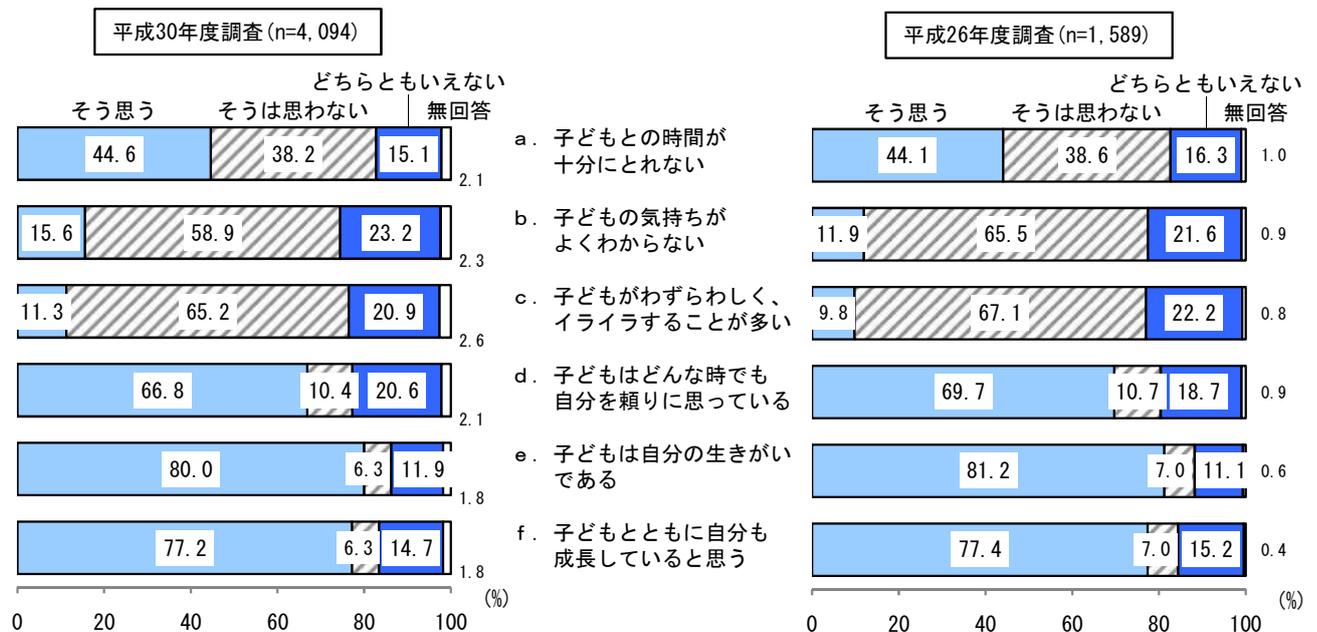


## 2. 子どものことについて

### (1) 子育てや子どもとの関係で感じていること

問 10 あなたは、子育てやお子さんとの関係などについてどのように感じていますか。  
a～fのそれぞれの項目で、あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図 2-1-1 経年比較 子育てや子どもとの関係で感じていること（母子家庭）】



子育てや子どもとの関係で感じていることについて、母子家庭では、

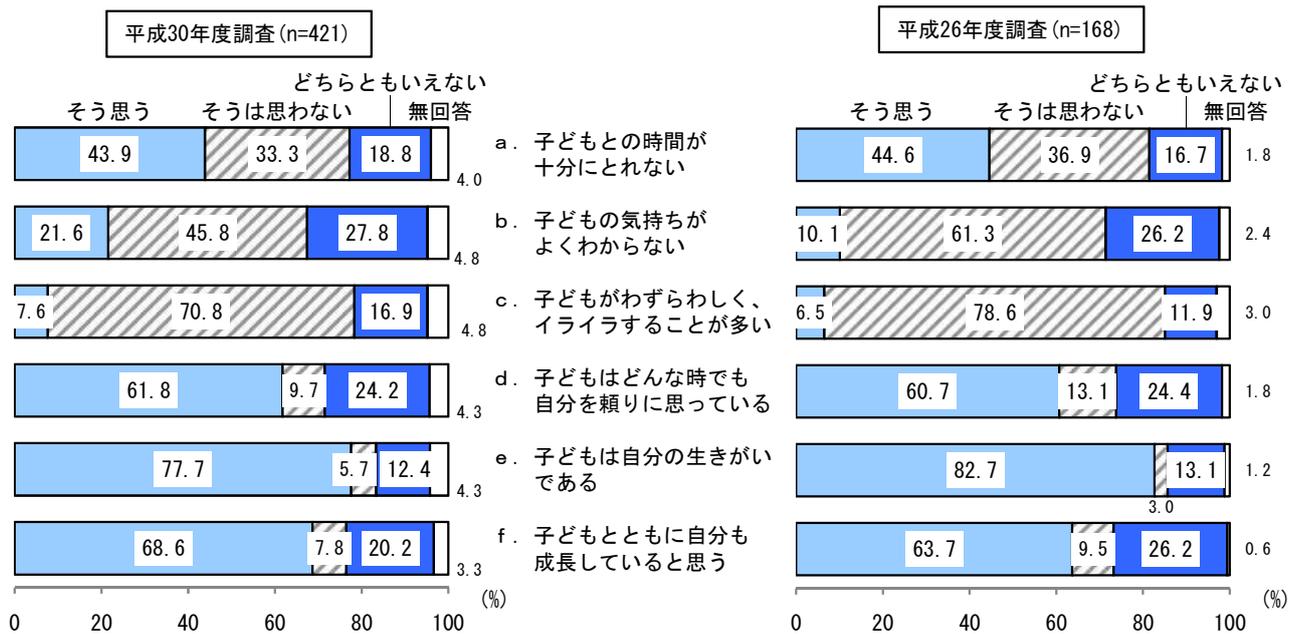
“a. 子どもとの時間が十分にとれない”は、「そう思う」が44.6%、「そうは思わない」が38.2%となっている。また、平成26年度調査と比較しても大きな変化はみられない。

“b. 子どもの気持ちがよくわからない”は、「そうは思わない」が58.9%を占めており、「そう思う」は15.6%となっている。また、平成26年度調査と比較すると、「そう思う」が3.7ポイント増加している。

“c. 子どもがわずらわしく、イライラすることが多い”は、「そうは思わない」が65.2%を占めており、「そう思う」は11.3%となっている。また、平成26年度調査と比較しても大きな変化はみられない。

“d. 子どもはどんな時でも自分を頼りに思っている”や“e. 子どもは自分の生きがいである”、“f. 子どもとともに自分も成長していると思う”では、「そう思う」が過半数を占めており、平成26年度調査と比較しても大きな変化はみられない。(図2-1-1)

【図 2-1-2 経年比較 子育てや子どもとの関係で感じていること（父子家庭）】



父子家庭では、

“a. 子どもとの時間が十分にとれない”は、「そう思う」が43.9%、「そうは思わない」が33.3%となっている。また、平成26年度調査と比較すると、「そうは思わない」は3.6ポイント減少している。

“b. 子どもの気持ちがよくわからない”は、「そうは思わない」が45.8%、「そう思う」が21.6%となっている。また、平成26年度調査と比較すると、「そう思う」が11.5ポイント増加しており、「そうは思わない」は15.5ポイント減少している。

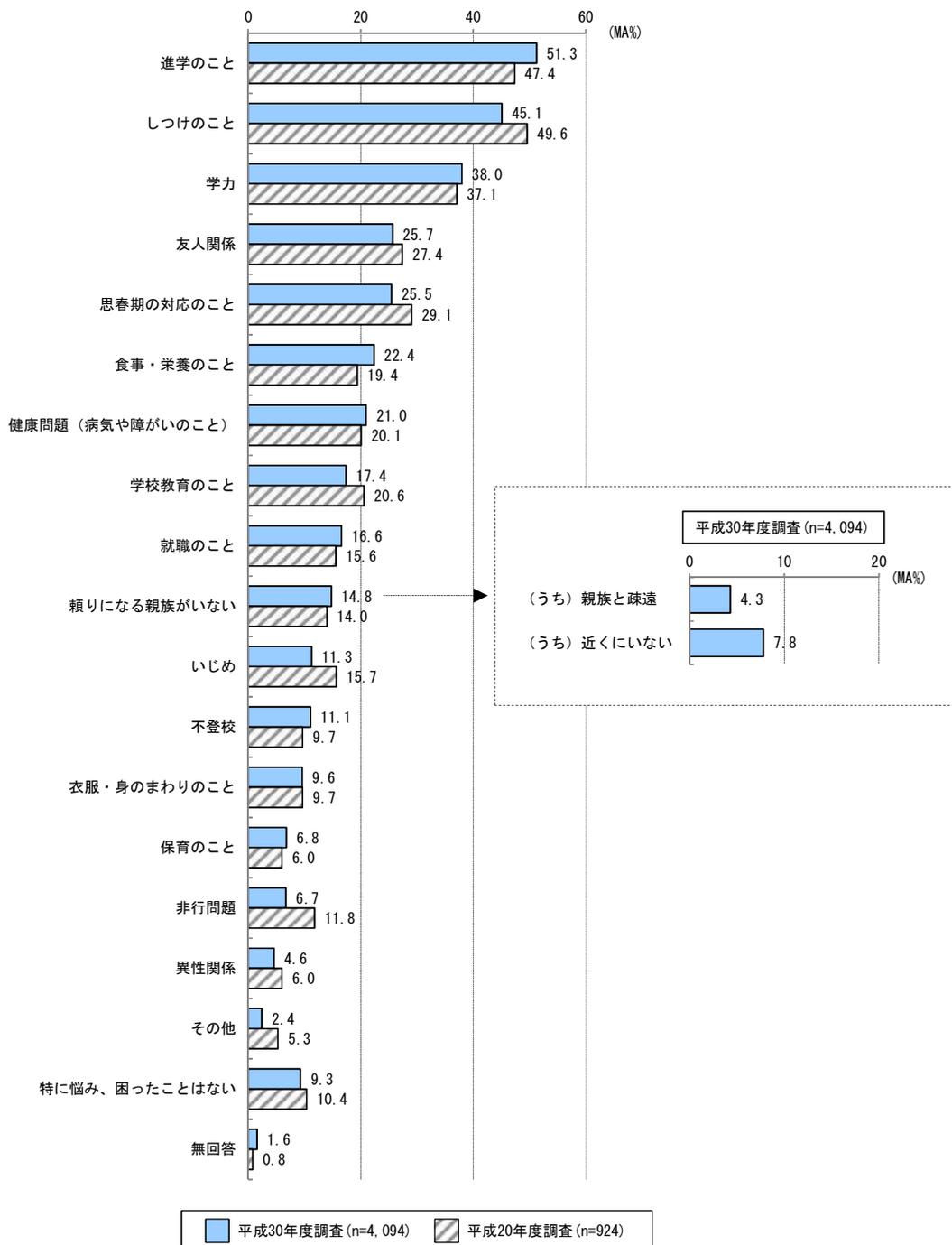
“c. 子どもがわずらわしく、イライラすることが多い”は、「そうは思わない」が70.8%を占めており、「そう思う」は7.6%となっている。また、平成26年度調査と比較すると、「そうは思わない」は7.8ポイント減少している。

“d. 子どもはどんな時でも自分を頼りに思っている”や“e. 子どもは自分の生きがいである”、“f. 子どもとともに自分も成長していると思う”では、「そう思う」が過半数を占めている。また、平成26年度調査と比較すると、“e. 子どもは自分の生きがいである”で「そう思う」は5.0ポイント減少しており、“f. 子どもとともに自分も成長していると思う”で「そう思う」が4.9ポイント増加している。(図2-1-2)

## (2) 子どもについて困っていること

問11 お子さんのことで、どのような悩み、困ったことがありますか。  
(○はあてはまるものすべて)

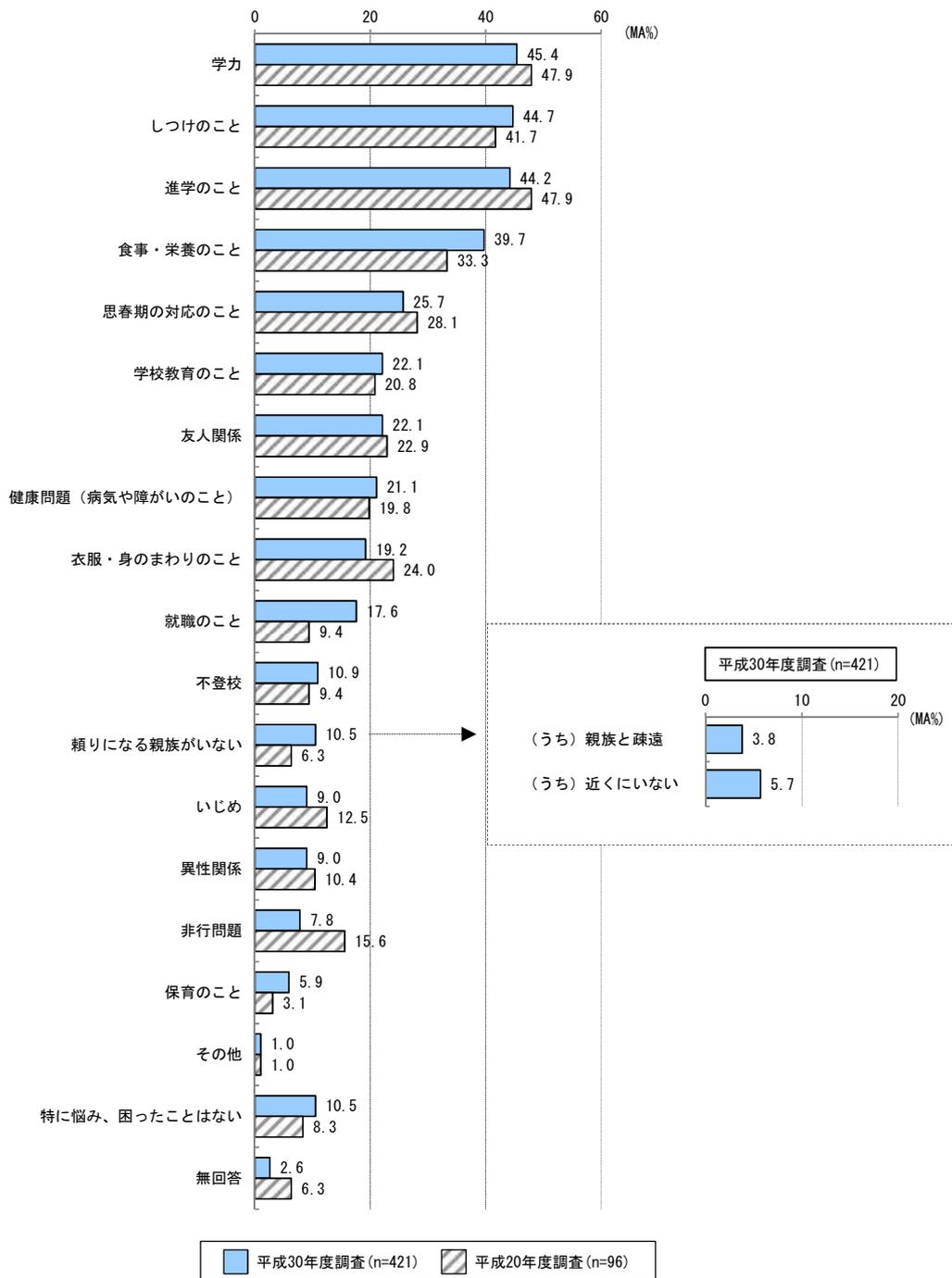
【図 2-2-1 経年比較 子どもについて困っていること (母子家庭)】



子どもについて困っていることは、母子家庭では「進学のこと」が51.3%で最も多く、次いで「しつけのこと」が45.1%、「学力」が38.0%となっている。

平成20年度調査と比較すると、「進学のこと」が3.9ポイント、「食事・栄養のこと」が3.0ポイント増加している。一方、「非行問題」は5.1ポイント、「しつけのこと」は4.5ポイント、「いじめ」は4.4ポイント減少している。(図 2-2-1)

【図 2-2-2 経年比較 子どもについて困っていること（父子家庭）】



父子家庭では「学力」（45.4%）、「しつけのこと」（44.7%）、「進学のこと」（44.2%）が大差なく上位に挙がっている。

平成20年度調査と比較すると、「就職のこと」が8.2ポイント、「食事・栄養のこと」が6.4ポイント、「頼りになる親族がない」が4.2ポイント増加している。一方、「非行問題」は7.8ポイント、「衣服・身のまわりのこと」は4.8ポイント、「進学のこと」は3.7ポイント、「いじめ」は3.5ポイント減少している。（図 2-2-2）

### (3) 子育てに関して困ったときの相談先

問 12 子育てに関する相談相手（場所）がありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図 2-3 子育てに関して困ったときの相談先】



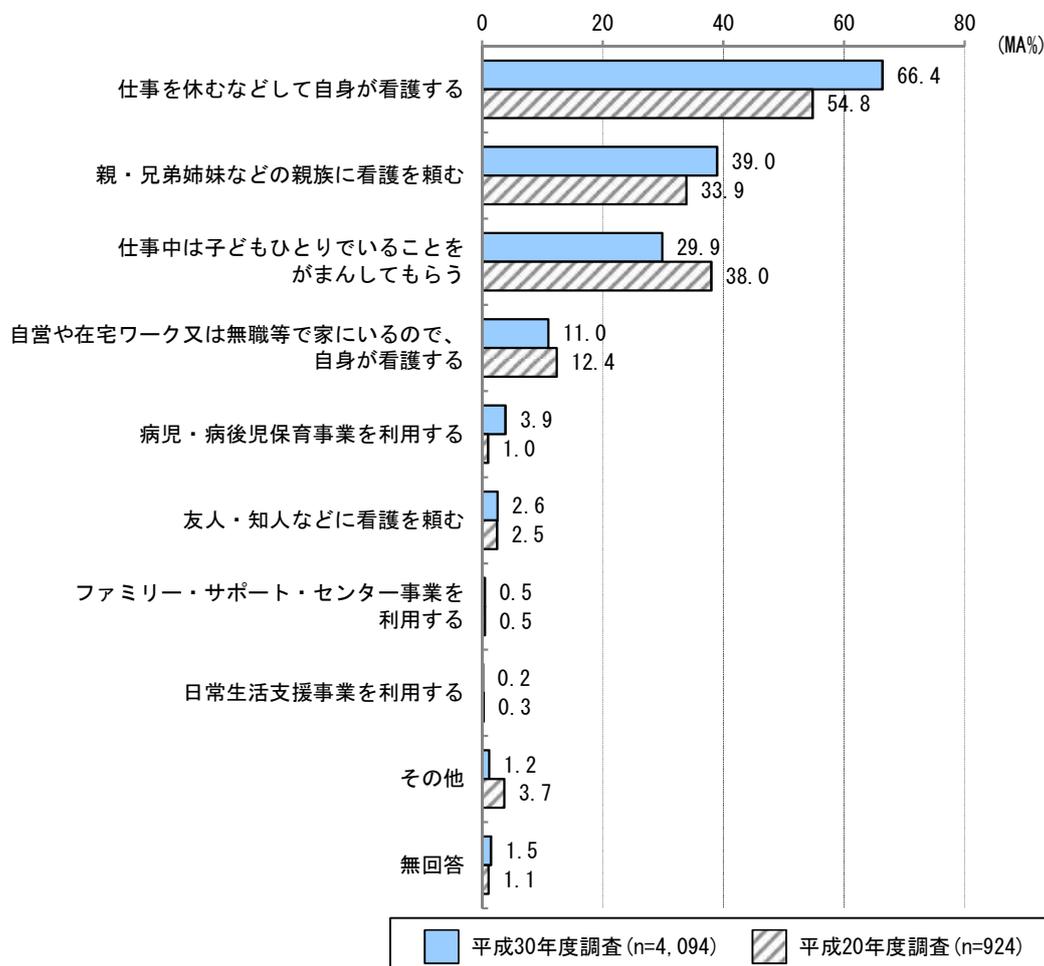
子育てに関して困ったときの相談先について、母子家庭では「友人」が70.6%で最も多く、次いで「親族」が67.0%、「学校（保育所・幼稚園等）の先生」が20.2%となっている。

父子家庭では「親族」が60.6%で最も多く、次いで「友人」が42.8%、「相談相手（場所）はいない」が18.3%となっており、父子家庭の相談先が「親族」に偏る傾向がうかがえる。（図 2-3）

#### (4) 子どもが病気になったときの対応

問13 お子さんが病気になったとき、あなたはどのような対応をしていますか。  
(○はあてはまるものすべて)

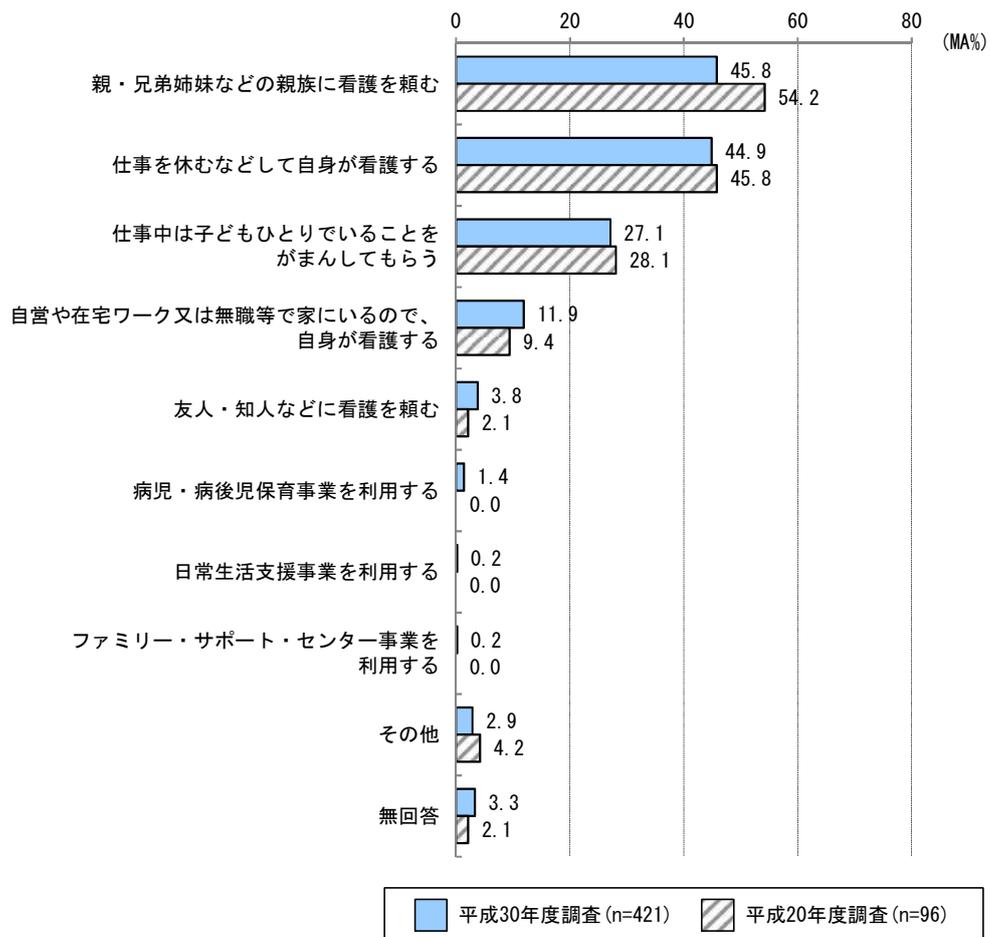
【図2-4-1 経年比較 子どもが病気になったときの対応（母子家庭）】



子どもが病気になったときの対応について、母子家庭では「仕事を休むなどして自身が看護する」が66.4%で最も多く、次いで「親・兄弟姉妹などの親族に看護を頼む」が39.0%、「仕事中は子どもひとりであることをがまんしてもらう」が29.9%となっている。

平成20年度調査と比較すると、「仕事を休むなどして自身が看護する」が11.6ポイント、「親・兄弟姉妹などの親族に看護を頼む」が5.1ポイント増加しており、「仕事中は子どもひとりであることをがまんしてもらう」は8.1ポイント減少している。(図2-4-1)

【図 2-4-2 経年比較 子どもが病気になったときの対応（父子家庭）】



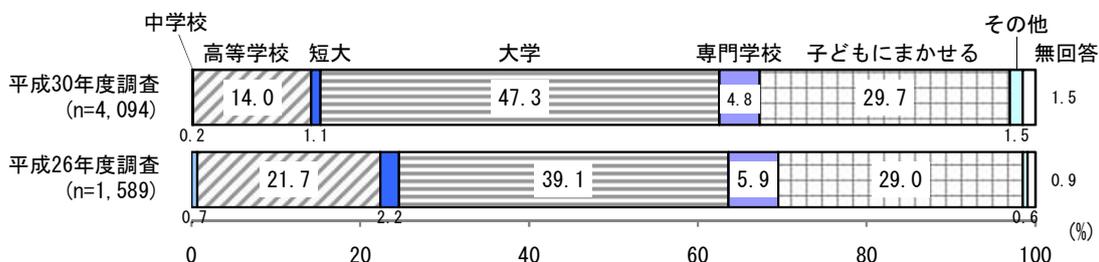
父子家庭では「親・兄弟姉妹などの親族に看護を頼む」が45.8%、「仕事を休むなどして自身が看護する」が44.9%で、どちらも大差なく上位に挙がっている。これらに次いで、「仕事中は子どもひとりであることをがまんしてもらう」が27.1%となっている。

平成20年度調査と比較すると、「親・兄弟姉妹などの親族に看護を頼む」は8.4ポイント減少している。(図 2-4-2)

## (5) 希望する子どもの最終進学先

問 14 お子さんの進学はどこまでを考えていますか。または考えましたか。(○は1つ)

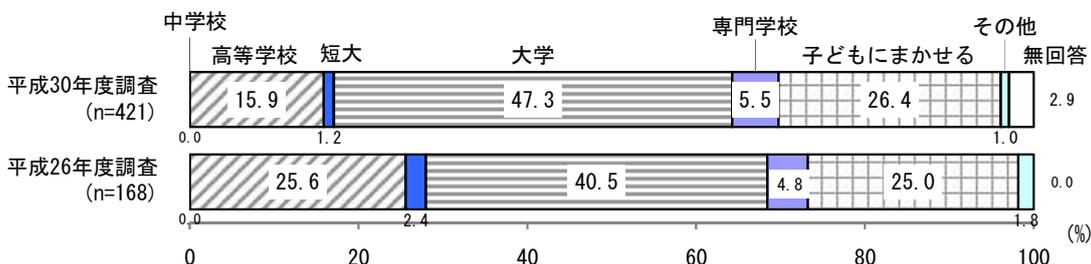
【図 2-5-1 経年比較 希望する子どもの最終進学先 (母子家庭)】



希望する子どもの最終進学先について、母子家庭では「大学」が47.3%で最も多く、次いで「子どもにまかせる」が29.7%、「高等学校」が14.0%となっている。

平成26年度調査と比較すると、「大学」が8.2ポイント増加しており、「高等学校」は7.7ポイント減少している。(図 2-5-1)

【図 2-5-2 経年比較 希望する子どもの最終進学先 (父子家庭)】



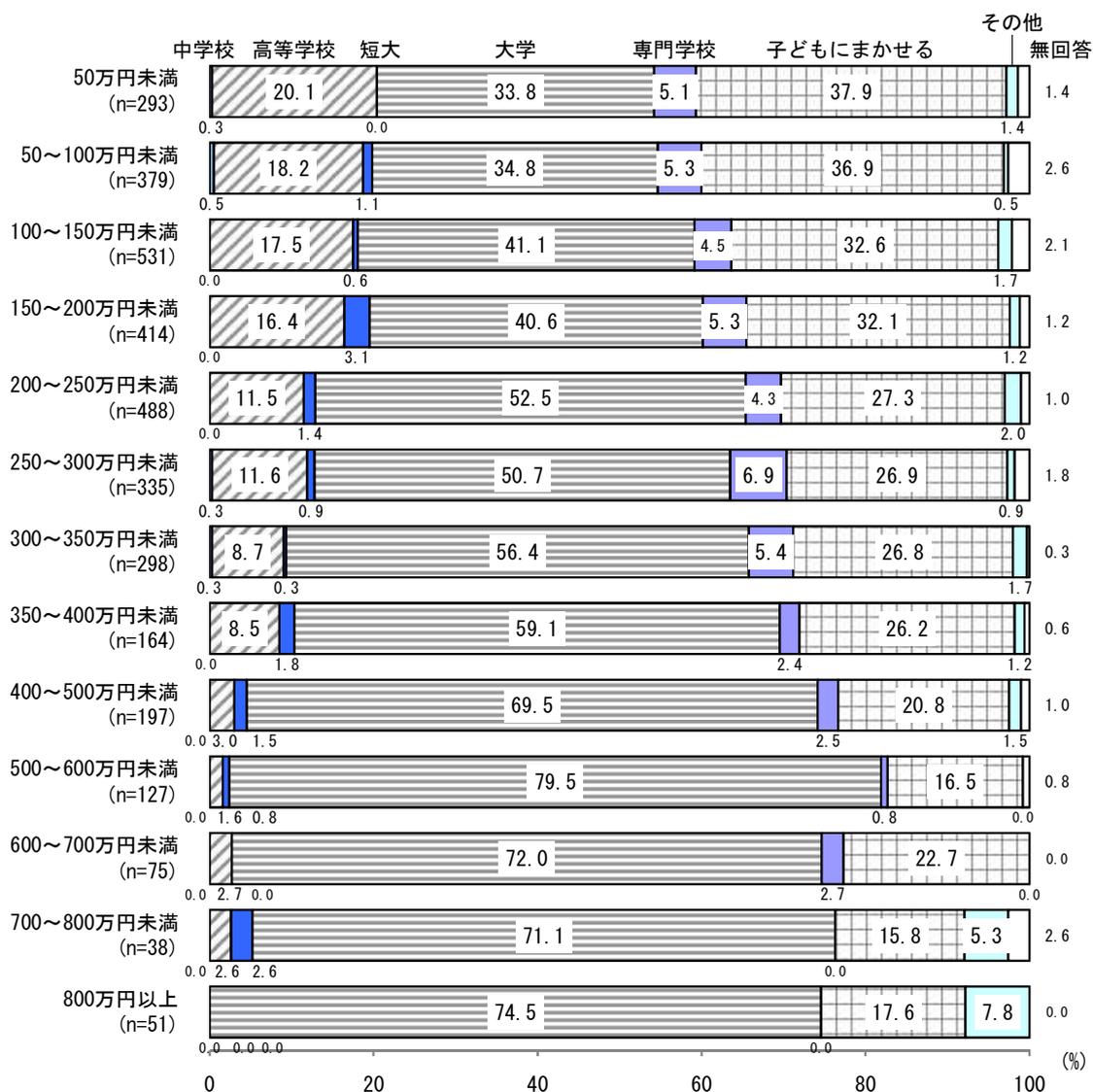
父子家庭でも、「大学」が47.3%で最も多く、次いで「子どもにまかせる」が26.4%、「高等学校」が15.9%となっている。

平成26年度調査と比較すると、「大学」が6.8ポイント増加しており、「高等学校」は9.7ポイント減少している。(図 2-5-2)

母子家庭について、自身の年間総収入別でみると、年収100万円未満の世帯は「子どもにまかせる」が最も多いが、年収が高額になるほど割合は低くなっている。

一方、年収100万円以上の世帯は「大学」が最も多く、年収が高額になるほど割合が高くなっている。(図2-5-3)

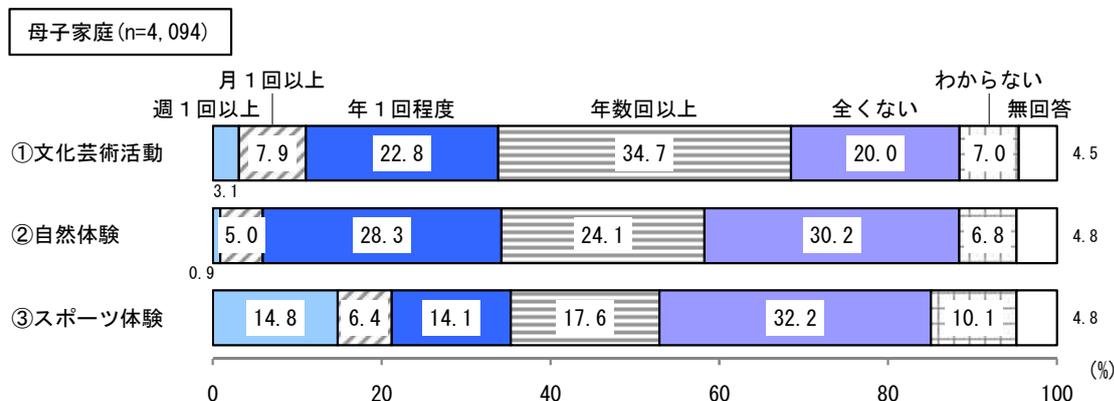
【図2-5-3 自身の年間総収入別 希望する子どもの最終進学先（母子家庭）】



## (6) 学校以外で行った活動や体験の頻度

問 15 お子さんについて、学校の授業等を除き、過去1年間に、文化芸術活動（映画、音楽、絵画、写真、演劇などの鑑賞、体験など）や自然体験（山登り、海水浴、川遊び、キャンプなど）、スポーツ体験を行う機会はどの程度ありましたか。（○はそれぞれ1つ）

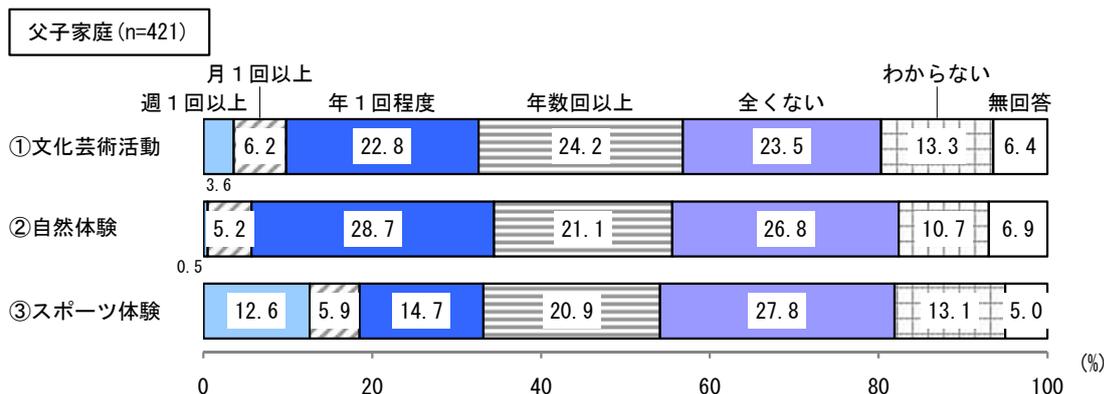
【図 2-6-1 学校以外で行った活動や体験の頻度（母子家庭）】



学校以外で行った活動や体験について、母子家庭では、“①文化芸術活動”が「年数回以上」で34.7%と最も多くなっているが、“②自然体験”と“③スポーツ体験”は「全くない」が3割台で最も多くなっている。

また、“②自然体験”をした子どものいる世帯では「年1回程度」（28.3%）が最も多くなっている。“③スポーツ体験”では「週1回以上」が14.8%と他の活動・体験に比べて高い割合になっている。（図 2-6-1）

【図 2-6-2 学校以外で行った活動や体験の頻度（父子家庭）】



父子家庭では、“①文化芸術活動”が「年数回以上」（24.2%）、“②自然体験”が「年1回程度」（28.7%）、“③スポーツ体験”は「全くない」（27.8%）が、それぞれ最も多くなっている。

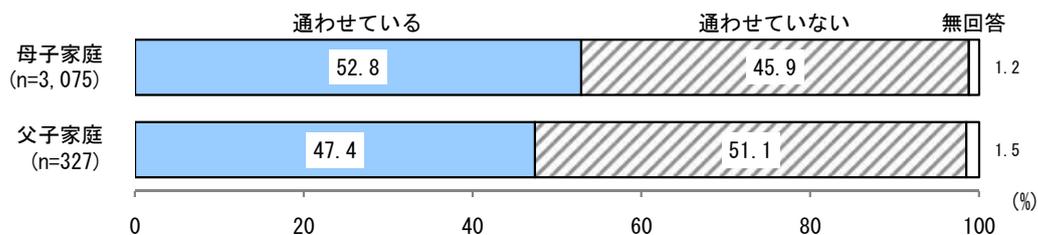
また、“③スポーツ体験”では「週1回以上」が12.6%と他の活動・体験に比べて高い割合になっている。（図 2-6-2）

## (7) 子どもの習い事状況

### ① 子どもを学習塾や習い事に通わせているか

【小学校1年生から高校3年生までのお子さんがおられる方におうかがいします】  
問16 お子さんを学習塾や習い事に通わせていますか。(○は1つ)

【図2-7① 子どもを学習塾や習い事に通わせているか】

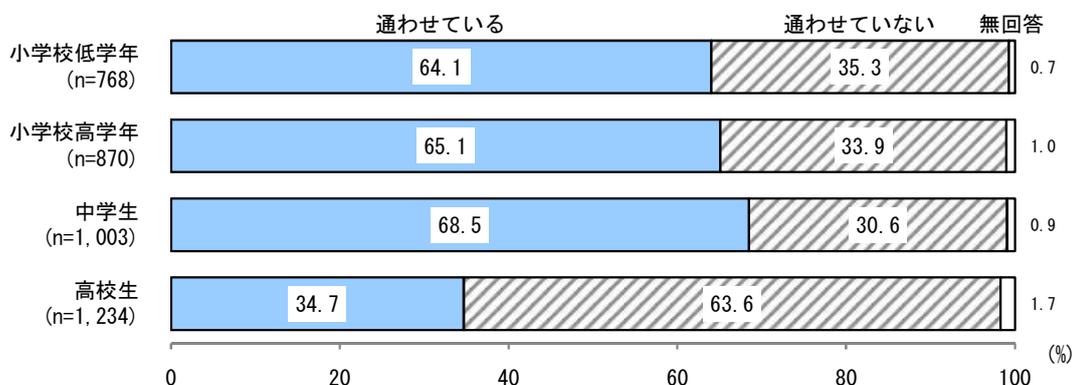


小学校1年生から高校3年生までの子どもがいる家庭に、学習塾や習い事に通わせているかをたずねると、母子家庭では「通わせている」が52.8%を占めている。父子家庭では「通わせている」が47.4%だが、「通わせていない」(51.1%)のほうが多くなっている。(図2-7①)

母子家庭について、子どもの発達段階（世帯単位）別で見ると、小学校低学年・高学年、中学生の子どもがいる世帯では「通わせている」が6割台を占めている。

高校生の子どもがいる世帯では「通わせている」は34.7%で、「通わせていない」（63.6%）のほうが多くなっている。（図2-7①-1）

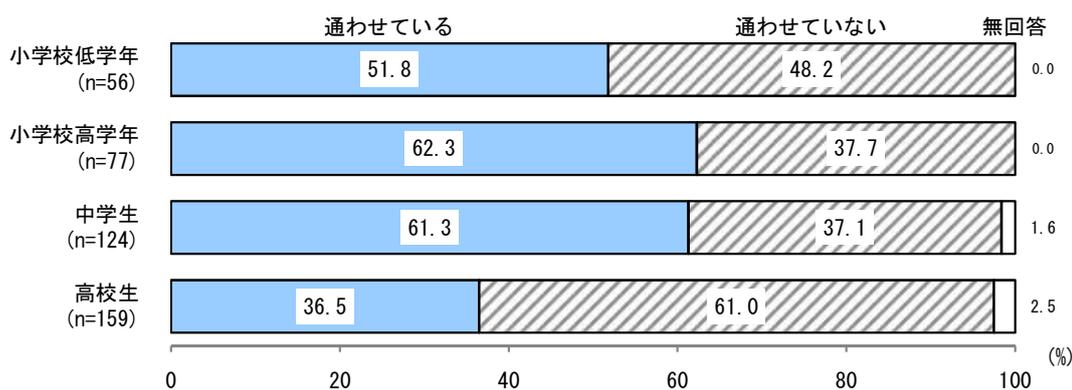
【図2-7①-1 子どもの発達段階（世帯単位）別 子どもを学習塾や習い事に通わせているか（母子家庭）】



父子家庭について、子どもの発達段階（世帯単位）別で見ると、小学校低学年・高学年、中学生の子どもがいる世帯では「通わせている」が過半数を占めているが、小学校低学年の子どもがいる世帯（51.8%）は、小学校高学年（62.3%）や中学生（61.3%）の子どもがいる世帯に比べて低い割合になっている。

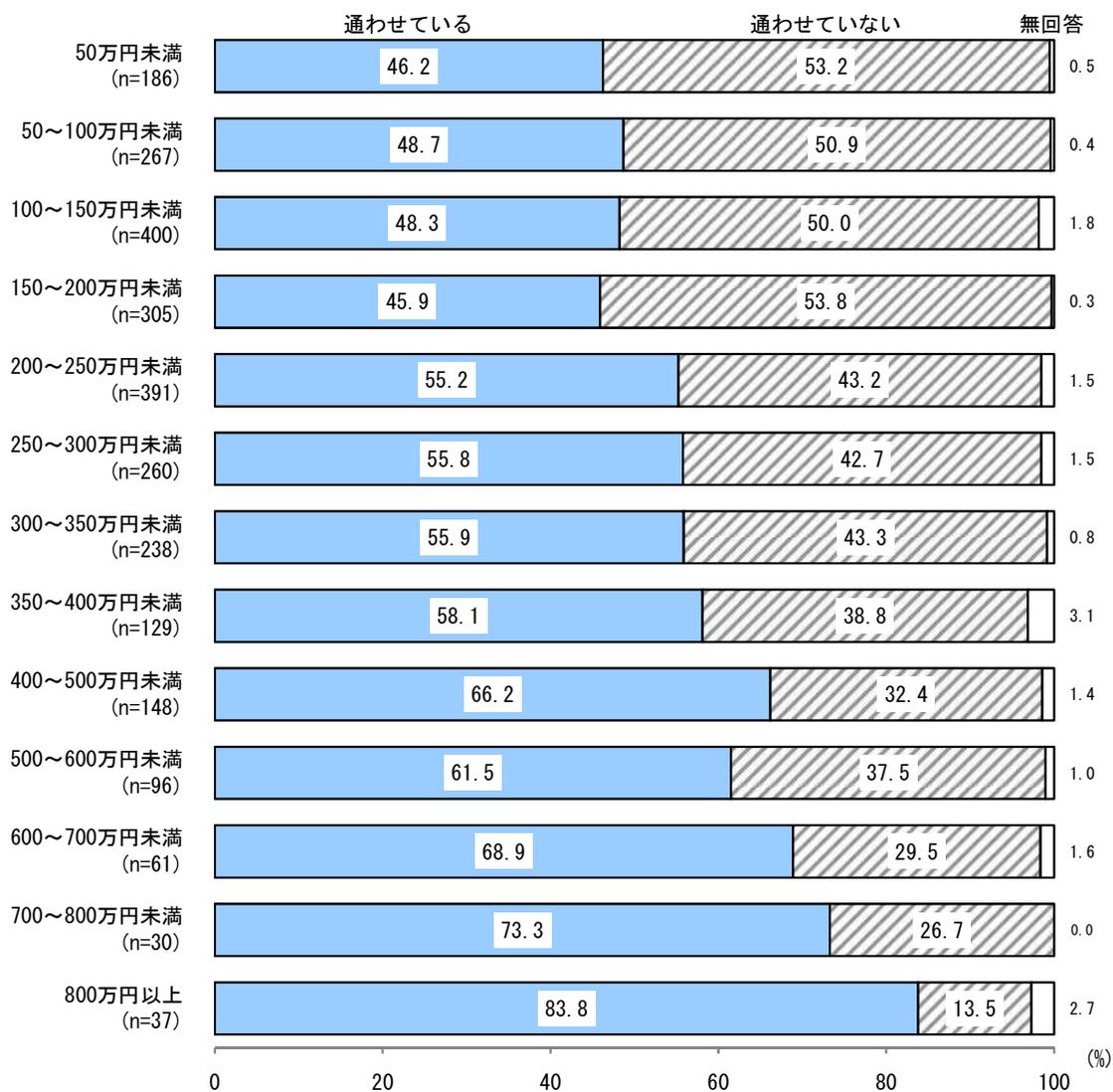
高校生の子どもがいる世帯では「通わせている」は36.5%で、「通わせていない」（61.0%）のほうが多くなっている。（図2-7①-2）

【図2-7①-2 子どもの発達段階（世帯単位）別 子どもを学習塾や習い事に通わせているか（父子家庭）】



母子家庭について、自身の年間総収入別で見ると、年収 200 万円未満の世帯では「通わせていない」の割合がやや多いが、年収が高額になるほど高い割合になっており、年収 200 万円以上になると「通わせている」が過半数を占めている。(図 2-7①-3)

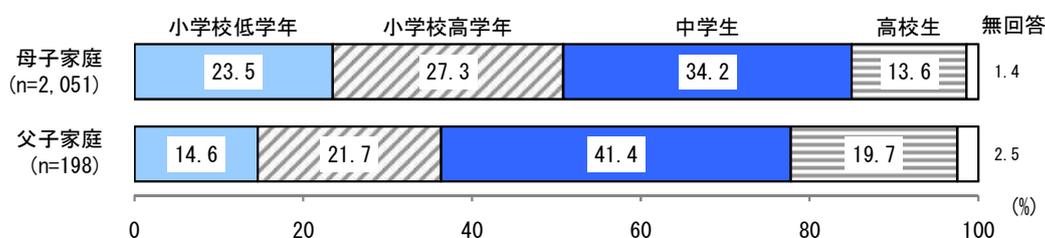
【図 2-7①-3 自身の年間総収入別 子どもを学習塾や習い事に通わせているか (母子家庭)】



② 子どもが通っている習い事の状態（把握したすべての子どもにおける割合）

問 16-1 問 16 で「通わせている」と回答した方におうかがいします。  
 どのようなところに通わせていますか。また、1か月の月謝はどのくらいですか。  
 お子さんごとにお答えください。

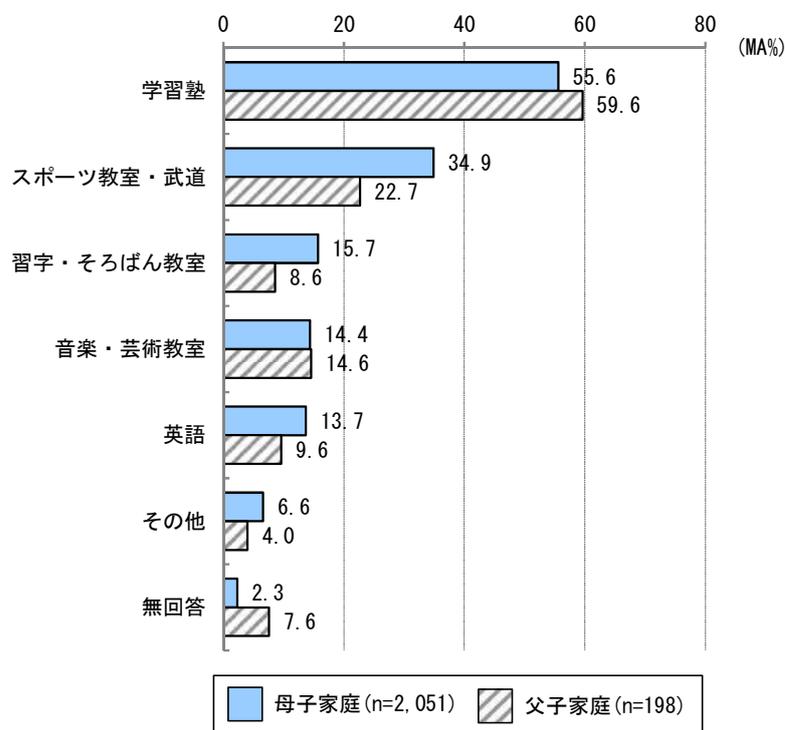
【図 2-7②-1 学習塾や習い事に通っている子どもの学年】



学習塾や習い事に通っている子どもの学年は、母子家庭・父子家庭とも「中学生」が最も多く、母子家庭は 34.2%、父子家庭は 41.4% となっている。

また、母子家庭では「小学校低学年」(23.5%) と「小学校高学年」(27.3%) を合わせた小学生の割合が 50.8% を占めている。(図 2-7①-1)

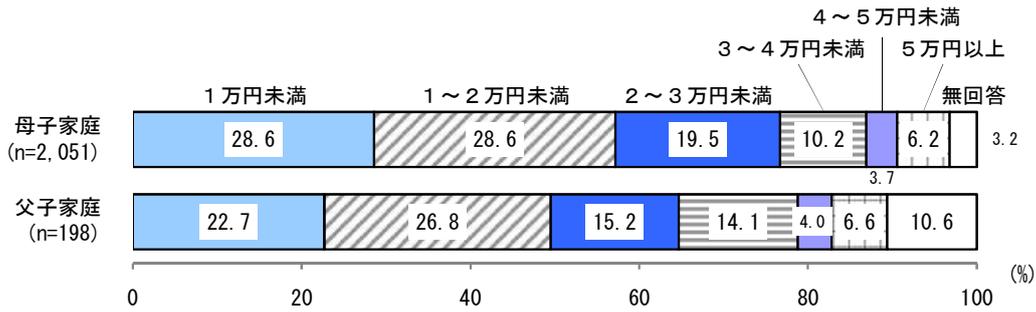
【図 2-7②-2 子どもが通っている習い事】



子どもが通っている習い事は、母子家庭・父子家庭とも「学習塾」が最も多く、母子家庭は 55.6%、父子家庭は 59.6% となっている。

また、母子家庭では「スポーツ教室・武道」が 34.9% となっており、父子家庭(22.7%) に比べて 12.2 ポイント高い割合になっている。(図 2-7②-2)

【図 2-7②-3 子どもが通っている習い事の月謝】



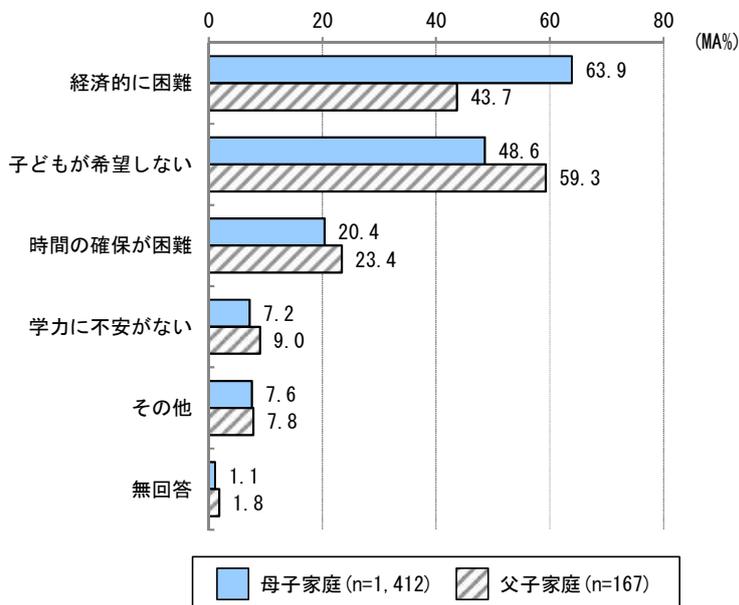
子どもが通っている習い事の月謝は、母子家庭では「1万円未満」と「1～2万円未満」がともに28.6%で最も多く、平均額は約1.9万円となっている。

父子家庭では「1～2万円未満」が26.8%で最も多く、次いで「1万円未満」が22.7%となっており、平均額は約2.2万円となっている。(図 2-7②-3)

### ③ 子どもを習い事に通わせていない理由

問 16-2 問 16 で「通わせていない」と回答した方におうかがいします。  
通わせていない理由は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図 2-7③ 子どもを習い事に通わせていない理由】



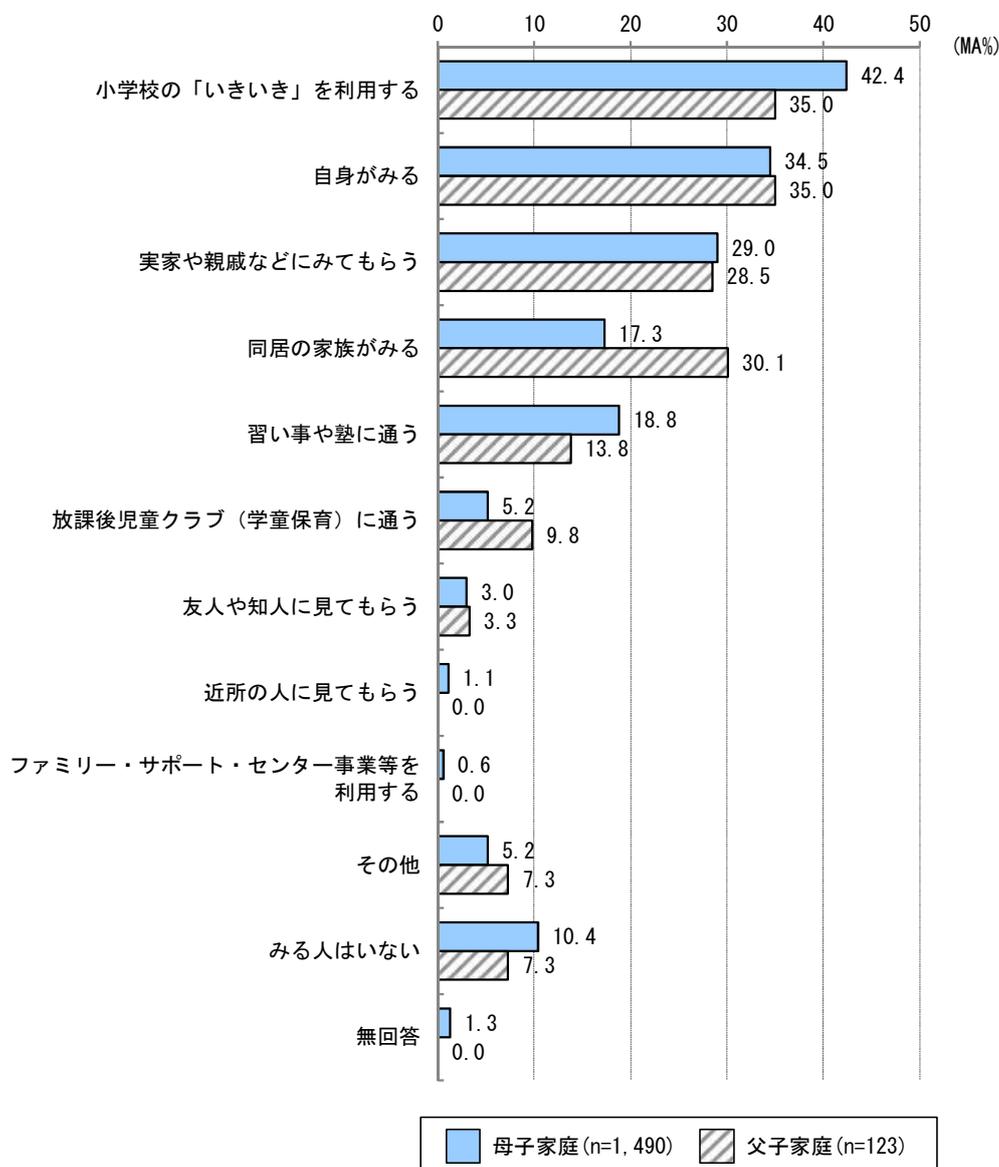
子どもを習い事に通わせていない理由について、母子家庭では「経済的に困難」が63.9%で最も多く、父子家庭(43.7%)に比べて20.2ポイント高い割合になっている。

父子家庭では「子どもが希望しない」が59.3%で最も多くなっている。(図 2-7③)

(8) 放課後や小学校の長期休暇中に、子どもの面倒をみる人

【小学校1年生から6年生までのお子さんがおられる方におうかがいします】  
 問17 放課後または小学校の長期休暇中、そのおさんは主にどなたがみていますか。  
 (もしくはどちらに通われていますか。)(○はあてはまるものすべて)

【図2-8 放課後や小学校の長期休暇中に、子どもの面倒をみる人】



小学校1年生から6年生までのお子さんがいる家庭に、放課後や小学校の長期休暇中に子どもの面倒をみる人がいるかをたずねると、母子家庭では「小学校の「いきいき」を利用する」が42.4%で最も多く、次いで「自身が見る」が34.5%となっている。父子家庭では「小学校の「いきいき」を利用する」と「自身が見る」がともに35.0%で最も多くなっている。

また、「同居の家族が見る」割合では、母子家庭が17.3%で、父子家庭(30.1%)に比べて12.8ポイント低い割合になっている。(図2-8)